

【草花の部屋】

スイカ（ウリ科スイカ属 *Citrullus lanatus*）

和名：スイカ（西瓜） **別名**： **英名**：Watermelon

ウリ目 蔓性一年草

原産地：熱帯アフリカ

花言葉：かさばったもの

花色：黄



← 写真-1 スイカ

撮影日：2019年06月16日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 スイカの雌花

撮影日：2019年06月19日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 スイカの雄花

撮影日：2019年06月19日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



→ 写真-4 スイカの果実

撮影日：2019年06月19日

撮影場所：大和郡山市

郊外にて

撮影者：M さん

大和郡山市郊外の家庭菜園で見かけました。特別、珍しい植物ではありませんが・・・。

葉は切込みが深く、丸みを帯び、葉身は約25cmほどです。雌雄異花で花色は黄色、雌花は下位子房です。水に濡れると花粉が破裂するため、受粉後約4時間以内に降雨に遭うと着果しないそうで、自家受粉では良質な実は着果しないそうです。

スイカは全ての葉っぱの付け根から蔓(孫蔓)と雄花が出てきます。そして、葉っぱを数えて5～7節に一度、雄花ではなく、下位子房の雌花がつきます。さらに、受粉するには、「その日に咲いた雌花」でなければならず、雄花の花粉の寿命も短く、雌花サイドの受付時間も短いのが特徴だそうです。

スイカは、品種にもよりますが、子蔓に雌花を咲かせ、実を着けるので、親蔓を摘芯する作業が大事になります。親蔓が5枚～7枚くらいの頃、摘芯すると子蔓が伸びてくるので親蔓を摘み取ります。スイカの子蔓が伸びてくると、まず7節～8節目に最初の雌花がつきます。それよりも前に花は咲きますが、雄花であることがほとんどだそうです。スイカに最初についた花は未熟で、受粉不良を起こして、実が大きくなることが多いため摘花し、2番目以降に咲いた雌花に受粉させるようにします。

スイカは肥料を与えすぎると、蔓ばかりが勢いよく生長し、花が咲きにくい蔓つるぼけの状態になるので要注意です。特に、窒素成分が多い肥料を与えていると、蔓ぼけになりやすくなります。すでに蔓ぼけになっているときは、肥料を与えずに余分な孫蔓は摘み取って光合成を抑制します。雌花が咲いたら、全ての花を結実させ、元気のよい実を1～2個残して摘果します。

アジアでは種子を炒って歯で割り、中身を食べる地域が多いそうです。中国では西瓜子と呼ばれ、酒のつまみ、料理、菓子などに用いられ、炒って味付けされたものは日本に輸入されているそうです。またスイカの前産地であり利用や栽培の始まったアフリカでも、種子を炒って粉末にするなどし、食材として利用する食文化があるそうです。また、スイカの皮や、より品質の高い果実を収穫するために摘果した小さな未熟果実の漬物・ピクルスも良くしられています。

スイカは紀元前5000年にはすでに南アフリカで栽培されていたそうです。10世紀に中国に伝わり、世紀後半頃に日本に渡来し、江戸時代の後期に全国に広まったそうです。

<ちょっと一言>

下位子房

ウリ科(カボチャ、ツルレイシ、キュウリ)の花やキキョウ科の花では、子房は花被の付け根よりも下にあります。子房はまわりの組織に埋め込まれていて、花を上からのぞき込むと、まるで花の底からいきなり花柱が突き出しているように見えます。このような子房を下位子房(inferior ovary)とされています。